大会実行委員会主催　公開シンポジウム
「太陽光発電の普及と環境アセスメント」

2011 年 3 月の東日本大震災とそれにともなう福島第一原子力発電所の事故以降、我が国の電力生産を取り巻く環境は大きく変化し、新たな電源として再生可能エネルギーを活用する必要性が高まりました。なかでも太陽光発電は、2012 年に電力固定買取制度の運用が開始されて以来急速に普及が進んでいます。しかし、再生可能エネルギーといえども、環境への配慮が適切になされず、これを大規模かつ拙速に普及を進めた場合には、環境への影響が懸念されるところです。

特に山梨県及び長野県は、太陽光発電の好適地として、全国に先駆けてその普及が官民をあげて図られてきました。一方で、その急速かつ大規模な普及に対する環境への影響に関する懸念に応えるため、環境影響の程度や環境保全対策についての情報を適切な時点・内容で社会に提供することが求められています。

このような社会的要請に応え、近年、長野県では環境アセスメントの対象項目となり、また、山梨県では世界遺産・富士山を仰ぐ地域として適切な景観保全の対策を求めるガイドラインの改訂がされるなど、環境保全を組み込んだ適切な意思決定を支援する動きも見られます。

本シンポジウムにおいては、太陽光発電の普及にともなって生じている諸問題について、山梨県、長野県の事例を中心に、行政・事業者・ＮＰＯなどの立場から直面する課題を紹介していただくとともに、パネルディスカッションを通じて、太陽光発電の適切な普及を図る上で、環境アセスメントはどのような役割を果たすべきなのかについて議論したいと考えています。

司会進行：上杉哲郎（本学会理事・㈱日比谷アメニス）

１）趣旨説明【14:30～14:35】

二宮浩輔（大会実行委員長・山梨県立大学国際政策学部教授）

２）話題提供【14:35～15:55】

（1）太陽光発電施設の適正導入に向けて　【14:35～14:55】

和泉正剛（山梨県エネルギー政策課）

（2）長野県の環境アセスメントと太陽光発電　【14:55～15:15】

是永　剛（長野県環境政策課）

（3）地域社会に受け入れられる太陽光発電とは　【15:15～15:35】

有木正浩（ネクストエナジー・アンド・リソース㈱）

（4）太陽光発電所の自主簡易アセスと住民意見の動向　【15:35～15:55】

傘木宏夫（本学会常務理事・ＮＰＯ地域づくり工房）

～休憩 10 分【15:55～16:10】～

３）パネルディスカッション【16:10～17:10】

コーディネーター　片谷教孝（本学会副会長・桜美林大学）